

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかわる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームひだまり
(ユニット名)	すずらん
所在地 (県・市町村名)	三重県三重郡菰野町
記入者名 (管理者)	佐伯 純子
記入日	平成20年 5月29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(■■■ 部分は重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
■	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人の入居するまでの地域との関わりを把握し、今後もそ れらが継続できるよう理念を共有している。	
	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は常に話し合い、共通の理念で介護が行える よう日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に した理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう 取り組んでいる	家族や地域の人々に積極的に趣旨を説明する機会を持つ よう心がけている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、 気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいが できるように努めている	地域の人が気軽に出入りでき、ゆっくりとくつろいで頂 ける場所であるよう心がけている。	
■	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、 老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交 流することに努めている	地域のボランティアの受け入れも積極的に行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>当施設として、利用者以外の高齢者の暮らしについて話し合うことはないが、職員の個人的な活動として、障害者等のボランティアとして取り組んでいる。</p>	○	<p>事業所や職員の介護技術をより向上させ、地域でも役立つ情報を交換し合い、微力ながら、蓄積した認知症対応のノウハウを地域に還元していく機会を持ちたいと考えている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議を開催している。</p>		
	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議において、報告や話し合いを行い、サービス向上に活かしている。</p>		
	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>日頃から訪庁の機会を多く作るよう心がけている。福祉モニターの来所もお願いし、実施している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修や施設内研修で、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学習し、必要な人があった場合にはそれらが活用できるようにしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待は絶対にあってはならないことと、共通の認識を持つようにしている。もしそのような傾向が見られれば、見過ごすことのないよう防止に努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	同業者との交流は県グループホーム連絡協議会や地域の事業者会議を通してのことが多い。交流の機会を多く持つよう心掛けていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話聞き、今、何を必要としているのかを見極め、他のサービスの利用についても説明することがある		
	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自家への外泊、家族のホームでの寝泊り等。個々に応じ、徐々にホームに馴染める工夫を、本人・家族と相談しながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	教えていただいた歌と一緒に歌ったり、一緒に手入れをした花を見て楽しんだりして、共に楽しみや喜びを共有している。共に行動し学ぶことで、喜びを分かち合い、一方的な支援関係にならないよう留意している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを密にし、どのようにしたら本人をよりよく支えていくことができるか、一緒に考えている。面会の頻度を増やしていただいたり、一緒に外出する機会を多く持っていたりするなど、家族・職員が力を合わせている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係は必ずしもホームに来られる以前から良好であったとは限らないが、本人の家族への思いを傾聴し、良好な関係はそのままに、そうでない場合も本人の満たされない思いを吐露していただくことで、ストレスを解消し、より良い関係を築くことができるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問しやすい雰囲気作りを大切にしている。また、買い物等の外出時、知人から声を掛けられたりしたときは、急かすことなく、ゆっくり話しをしていただいている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う仲間同士と一緒に過ごしやすいよう、配慮している。また、時として利用者同士が反発しあうこともあるが、共に暮らすいつもの相手として、互いに認め合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も関わりが必要なときは継続的な付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を直接うかがうだけでなく、利用者同士の会話や日々の行動から窺うことのできるそれぞれの思いや暮らし方の希望、意向を把握している。また、日々の表情や行動の変化にも注意し、本人本位の意向を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族やこれまで利用してきたサービスの担当者から情報を得ている。また、一緒に暮らしていく日々の会話から、生活環境や生活歴を把握することに努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の記録により、一人ひとりの生活、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握している。また、ミーティングでもアセスメントを行い、個々の現状を職員間で意見を交換しながら把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人には日常の会話の中でそれぞれの意向をうかがっている。家族等には面会時に希望ををお聞きしたり、現在の課題について相談したりし、介護計画に反映している。介護計画の作成は、計画作成担当者のみで行うのではなく、グループによる話し合いで行っている。		
	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に一度は介護計画の見直しを行っている。見直しにあたってはミーティング時に職員全員で計画を評価し、計画の改善に向けた話し合いを行っている。新たな課題が発生した場合は職員同士が話し合い、計画の期間にとらわれることなく、その時々々に即した計画を作成している。	○	入居者の高齢化に伴い、体調不良や疾病に罹ることが多くなってきている。今後とも、その場に応じた介護計画の見直しを十分に行っていききたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニットとしての記録と、個々の記録を活用し、日々の様子等が全体として、また個々として把握できるようになっている。職員の印象が記録によって裏付けられ、それをもとにより適切な介護計画を作成するよう努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自家への外泊・墓参り、喫茶店や理美容院への外出、買い物への同行等、本人や家族の状況・要望に応じて多機能性を活かした支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア等の受け入れを積極的に行なっている。消防は防災訓練、火災通報装置の点検、救急車の要請等で協力してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他の介護サービスを利用する場合、介護保険の適用ができないので行っていないが、本人の意向や必要性があったときは話し合っていきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の意向や必要性が生じてきた場合はセンターと協働していく意向である。		
	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医での受診を支援している。また、協力病院とも連携しながら適切な医療が受けられるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の先輩として、常に利用者一人一人の人格を尊重した対応を行っている。また職員の守秘義務を徹底し、プライバシーを損ねることのないよう注意している。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>それぞれの利用者の、その日・その時の気持ちや気分を自然の表現し、自由かつ穏やかに暮らしていただけるよう、これからもより一層努力していきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>何を食べるか考えるところから始まり、庭での野菜の収穫や、後片付けまでを大きく食事ととらえ、食べるだけでなく、様々な形で自発的に食事に関わることができるよう支援している。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、オムツはできるだけ使用しない方向で支援している。食事前、入浴前、就寝前等に声かけを行い、排泄の自立にむけた支援を行っている。また、その際はさりげなく声をかけ、羞恥心やプライバシーへの配慮を徹底している。		
	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は特に定めず、希望する日に入浴していただいている。時には仲の良い方同士一緒に入浴し、ひとりひとりが気持ちよく入浴できるよう支援している。入浴を嫌がる方に対しても、決して無理強いせず、入浴したいと思えるよう声をかけにも工夫している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の活動を活発にし、一日の生活リズムを確立し、昼夜逆転にならないよう支援している。精神面での不安定や疲労等が見られる時は、程度に応じて心身を休めたり、気分転換を行う等支援している。体調にも気を配りながら、十分な休息をとっていただいている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意なこと、したいことで力を発揮できるよう、仕事を頼み、感謝の言葉を伝えている。ラッキョウ漬け、梅干作り等経験や知恵を発揮できる場面を作り、職員がそれを教えてもらいながら、共に楽しんでいる。	○	洗濯や、掃除、調理、花の水遣り等、それぞれの利用者が必要とする役割と役割を感じ、主体的に行動している場面が見られる。職員はそれを当たり前と思わず、感謝し一緒に行動することで、より一層喜びを感じていただけるように今後とも支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は自分で行って頂いている。能力に応じて、買物に行く時に財布を渡す等、各人の力量を考慮して支援している。		
	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や気分に合わせて、外食、ドライブ、買物、理美容院等、あらゆるところへ積極的に出かけている。	○	積極的に外出を希望される方はもちろん、その希望をうまく表現できない方も、より多く外出の機会を作り、季節の移り変わりを感じ、ホームの外の方々と交流し、社会参加する機会を増やしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に1度は「お出かけ日」を計画し、旅行気分を味わって頂いている。また毎年夏には地域の盆踊り大会へ出かけ、踊ったり見物したりして楽しんでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話中には席を外す等プライバシーに配慮しつつ、ホームの電話を自由に使えるようにしている。荷物や手紙などは居室へお届けしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の定めもなく、いつ来て頂いても歓迎している。(ご家族の都合で夜遅くの場合もある)湯茶をお出しし、時には一緒に食事をしたり、おやつを召し上がったりして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所初期からミーティングを開催し(月1回)身体拘束を行わないことを職員にも徹底している。また、資料を回覧する等して「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解している。		
	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りがある時は施錠を行わないよう努めているが、不特定多数の人が集まるスーパーが目の前にあり、周辺道路の交通量も多いため、やむを得ず施錠する場合もあり、家族、利用者の了解を得るようにしている。外出を希望される場合は開錠し、各人に応じて単独・見守り・付き添い外出していただいている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	対面式の台所で皆さん一人一人が見渡せるようになっている。また、現在の様子や位置は常に把握しているよう周知している。夜間は定期的に利用者の様子を確認し、安全・安心の確保に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべてを取り除くようなことはなく、本人の管理、ホームでの管理等、一人ひとり、一つ一つのものに対して、取り扱いに注意している。薬剤、洗剤等共有の物に関しては、安全管理のため、手の届きにくい、目に触れにくい場所で保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生した場合には、事故報告書に記録し、その都度原因や事故を予防するための改善点を話し合い、職員が意識を共有している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急事態への対応策のマニュアルを作成し、又、機会あるごとに対応の確認を行なっている。		
	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を通し、避難方法の習得や、地域の人々の協力が得られる働きかけを行なっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	安全を優先しすぎて、自由を束縛することがないように、家族にも説明し、抑圧感のない暮らしをしていただけるよう努力している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員が日々の正常な状態を十分把握するよう努めており、記録も残している。ちょっとした気づきも記録し、職員間で申し送ることにより、小さな異変にも即座に対応できるようにしている。異常に気が付いたときは協力病院に連絡し、指示を受けたり、受診したりできるようになっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用に際しては手渡し・見守りを基本にし、声かけによって確実に服用されたか確認している。薬剤の内容については、説明書を個人のファイルに保存し、職員はそれを見て理解している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	天気の良い日は屋外へ出て散歩するなど、無理のない程度に身体を動かしていただき自然排便ができるよう取り組んでいる。食事でも野菜を多くし、食物繊維を多くとるよう心がけ、牛乳やヨーグルトなどの乳製品を毎日摂っていただいている。自然排便が困難な方には医師から処方された下剤を服用していただいている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入れ歯をはずした顔を見られたくないなど、一人ひとりの感情や能力に配慮して口腔ケアを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		
	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には、以前ご自分の家庭で愛用されていた調度品の持ち込みを奨励している。椅子、たんす、本棚、仏壇、テレビ、冷蔵庫、家族の写真等が持ち込まれている。</p>	○	<p>職員が利用者・家族と一緒に、安全にも配慮しながら、居心地のよいその人らしい居室であり続けるよう、今後ともより工夫していきたい。</p>
<p>84 ○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>各居室に換気扇があり、臭いやとどみがある時は随時換気している。冷暖房については常にご本人に確認し、各自に適した温度に調節している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりを設置し、台所、浴室等では補助具を利用する等の工夫により身体機能の低下を補っている。洗濯物干しは高さの調整し易いものを選び、長時間立った作業のできない方には椅子を用意し、座りながらして頂いている。</p>		
<p>86 ○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>トイレやお風呂場等さりげない表示がしてあり、居室にはご自分で選ばれた目印等をドアに取り付けている。また、表札は各自が自分で書かれている。</p>		
<p>87 ○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>中庭へはバリアフリーになっており、利用者が洗濯物を干したり取り入れたりするとき、自由にかつ安全になっている。中庭は、園芸や行事にも活用している。建物の外周では、野菜や花を育てており、一緒に手入れしたり、収穫したりしている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

特に立派な、人にアピールしたいような介護をしようとは思わないが、長い人生を歩んでいらっしゃる方にその終末期を「ここで過ごせてよかった」と思っていただけのように、おひとりおひとりの思いを大切に介護を、全職員心を合わせて日々行っています。